

令和5年度 調布市立第五中学校 学校評価報告書（学校長 小坂 力）

学校の教育目標

「徳」思いやりと助け合う心をもとう。「知」自ら学ぶ人になろう。「体」心と体を鍛えよう。

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

「生徒一人一人に居場所があり、安心・安全で自分の力を伸ばせる学校」を目指す。

生徒の在籍数は「命の数」である。生徒一人一人の命に「生きる力」を育むことが、調布市立学校の使命と捉えているからである。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 「話を聴く」「聴きあえる集団」	① 五中授業スタイルの確立	① 体育大会・合唱コンクール等
	② 週1回の学校いじめ対策委員会	② 市内中学校と連携した研究授業	② 健康・安全教育の充実
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 学校が楽しい	① 意欲的に授業へ取り組んでいる	① 学校行事は楽しく充実している
	② いじめの解消	② 授業は分かりやすく参加しやすい	③ 環境整備は行き届いている
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 様々なテーマで少人数のグループで話し合いをする「お話タイム」はとても評価できる。 いじめの兆しを見逃さずに教師が連携して素早く対応する体制が取れていること、解決が難しいケースでも経過を見守り続けていることは評価できる。 学校いじめ対策委員会を継続的にすすめてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業・協議会に学校運営委員会が参加できる体制等開かれていてよい。 研究発表会素晴らしかった。持続可能な研究にしてほしい。 教科を問わず、教師の授業の進め方に共通した方向性が見られる。全生徒が何らかの形で授業に参加するように工夫されている。 生徒たちの授業の様子が楽しそう。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動はよくやっている。安全点検は毎月1回実施するべきである。 毎月避難訓練が実施されており、救命救急の学習のチャンスがある。 水泳のボランティアを入れるなど地域関係者と連携している。 全体的に校舎内はきれいである。校内に汚れたままに放置されている場所はない。設備等への市の援助は不可欠。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 オリンピック・パラリンピック教育の推進	5 地域人材等との特別支援教育の推進	6 生涯を見通した「キャリア教育」
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 通級指導と連携した障害者理解等	① 放課後学習教室等による個別支援	① キャリア・パスポートの作成
	② 地域と協働によるボランティア活動の充実	② 外部人材の講師による学習の機会	
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 違いを認め合える実感をもつ	① 739名の「学びの保障」	① キャリア・パスポートの活用
	② ボランティアマインドの育成		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 一部の部活動では、地域でのボランティア活動の実績があるが、そもそもボランティア活動をする場や機会を知る情報提供がなかったことが課題。 美化活動等ボランティア活動を増やす。 学校全体として、生徒一人一人のボランティア精神の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家やJICAの外部講師を招いての授業が行われているが、その他にもかつての五中で取り組まれていた卒業生の話を聴く会「ようこそ先輩」を復活させることを検討していただきたい。 地域と協働して「やまなみ・かわなみ」ルームを充実させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科や学習目標に限定せず、各自で自由に短期間の達成目標を立てて、自主的に努力・挑戦をし、振り返りを記録に残していくことで、自身の成長を確認できるものだと考える。 職場体験や職業人の話を聴く会、上級学校等からの講話など充実している。 小学校との連携の充実と強化を期待する。

人材育成・組織運営

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> チームによるOJTの活性化 主幹教諭の管理職としての資質向上(毎朝の主幹会や喫緊課題の解決を通して) 適材適所の配置により、意欲と達成感をもたせ、教諭・主任教諭の学校運営意識の向上を図り、昇任への意欲の向上を図る。 ミニ研究Daysや校内研修の充実による授業力に関する研修
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の人間関係が良好であることは、悩みや課題を一人で抱え込んで疲弊することを防止するだけでなく、相互に支援協力し合える安心感が生まれ、授業や学級運営のためにより良いアイデアを生み出すことのできる職場環境を作り出していくと思う。現在五中は概ねそのような状態を保たれていると感じる。 評価します。このままの持続を望みます。 不登校の対応等について、学校運営協議会を対象として研修会を実施してほしい。

中期的な経営目標の達成状況

生徒の居場所を作る取り組みは、成果を上げつつある。不登校や登校渋りの生徒への対応は地域や関係機関と連携しながらしているものの、解決すべき課題である。

次年度の重点課題

生徒の在籍数は命の数という最重要課題に沿い、コミュニティスクール・モデル校としての取組を充実させ、地域関係者との連携を活性化し「一人も置いていかない教育活動」を実践していく。